



「ななつ星」のツアー参加者をもてなす  
鎌原副知事（4日、県庁）

「ななつ星」の県庁ツアー再開

宮崎ルート復活で

JR九州のクルーズトレイン「ななつ星in九州」と連動した県庁ツアーが3年半ぶりに再開し、第1陣が4日に訪れた。

ツアーは、東国原前知事時代に来庁者が急増したことにあやかり、平成19年から隔月実施。27年3月まで続いたが、熊本地震や九州北部豪雨に伴うルートの変更もあり、途切れていた。

今年3月から3泊4日コースで宮崎回りのルートが復活し、県内乗降のツアーも再開。滞在時間が午後のため、4～9月は青島観光、日照時間が短い10～3月に県庁ツアーを盛り込んだ。

同日は乗客28人のうち14人がツアーに参加。門川駅から大型バスで県庁に移動し、ボランティアガイドの案内で、庁舎の歴史や県内の文化などの話を聞いた。

接待した鎌原宜文副知事は温暖な気候や、宮崎牛、地鶏、マンゴー、焼酎などをPR。神話ゆかりの地が数多くあることも紹介し、「これを機に最低10回は宮崎に来てほしい」と売り込んでいた。



# 14日、初の県外公演



延岡市北浦町の三川内神楽（今年の三川内神楽まつりより）

## 延岡市 三川内神楽、沖久米島へメンバーの1人が勤務

延岡市北浦町三川内の五つの神楽保存会でつくる「三川内神楽まつり実行委員会」（山本亮二会長）は14日、沖縄県久米島町のイーフ情報プラザで「三川内神楽久米島公演」を開催する。初の県外公演に「地域の伝統文化を発信する絶好の機会」と張り切っている。

実行委員会は三川内の歌系、下塚、梅木、大井、市尾内の神楽保存会で構成。伝統文化を通じた地域活性化と伝統文化の継承を目的に「桜咲く三川内神楽まつり」の開催や城山神楽まつりなど延岡市内の各種イベントで神楽を披露している。県外公演に挑戦して

みたいという意欲も高まる中、メンバーの一人が現在、久米島で勤務している縁で実現し

た。6人が現地に赴き、会場のイーフ情報プラザで「地割」「シヨウギヨウ」「花舞」「花荒神」「番戸取り」「柴引き」「番戸取り」の七番を舞う予定。現在、本番に向けて練習を重

ねている。また、北浦町への観光誘客と地域の活性化につなげるため、久米島の住人や同島の観光客への観光パンフレット配布やSNSを使った情報発信を展開。宮崎産芋焼酎や宮崎地鶏などの特産品の販売も行い、購入者には北浦特産「月の塩」をプレゼントするなど地元をアピールする。

実行委員会事務局の甲斐孝太郎さんは「神楽を見るのは初めてという人も多いと思う。神楽の魅力や伝統文化の良さを感じてもらえるところらしい。また、北浦町のことを知ってもらい、観光振興につなげたい」と話している。